

展覧会情報

展覧会名 | 問×美 2017〜おこし絵茶室で新しい問屋まちスタジオと工芸建築を考える Part 2〜

場 所 | 問屋まちスタジオ (金沢市問屋町 1-90)

会 期 | 2017年11月11日(土) - 11月19日(日) 会期中無休

時 間 | 11:00~18:00

参加作家 | 石森良隆・伊能一三・岩井美佳・戸出雅彦・中瀬康志・真鍋淳朗・宮崎匠・坂本英之 (ディレクション)

主 催 | 問屋まちアートファクトリープロジェクト実行委員会

協 力 | 協同組合金沢問屋センター 金沢美術工芸大学 認定 NPO 法人金沢アートグミ

制作協力 | 田中信行、中瀬康志

素材・技術提供 | 石川トヨペット株式会社金沢西店 株式会社アイネックス 株式会社コシハラ 株式会社東山商会 株式会社ほくつう  
株式会社ヤギコーポレーション 川崎株式会社 泰和ゴム興業株式会社 塔島株式会社 北日商事株式会社  
有限会社ネーミングこしの 有限会社吉野利工具 (五十音順)

助 成 | いしかわ県民文化振興基金

問 合 せ | 認定 NPO 法人金沢アートグミ 076-225-7780 / info@artgummi.com

INFORMATION

TOI KAKERU BI 2017

問×美 2017

〜おこし絵茶室で新しい問屋まちスタジオと工芸建築を考える Part 2〜



同時開催

アートフェア…8名のアーティスト、工芸作家、デザイナーによる作品展示  
アーカイブ展…問×美 2015、2016、2017の3年間の活動実績を展示

問屋まちスタジオについて

問屋町は金沢市の西に位置し、その名のとおり広々としたスペースに問屋業を営む会社が集合した地域である。昭和40年初頭にその建設が始められ、現在においても当時の高度経済成長期における典型的なデザインの建物が多く存在している全国でも貴重な地域となっている。「問屋まちスタジオ」はその中でも唯一9つの会社が長屋状に連なった建物のひとつであり、広々とした道路に面したその外見の穏やかさからは想像できない奥まった空間の広がり、非常に開放的な空間となっている。2010年5月、金沢美術工芸大学と協同組合金沢問屋センターが「問屋町の街づくりに関する協定」を締結、アートを活用した新しい街づくりの取り組みをスタート。その中心的な発信の拠点として、2011年3月、問屋センターより提供を受けた旧印刷工場(床面積436平米/約132坪)を活用してオープン。



協同組合金沢問屋センター完成50周年スローガン

「街力発信」

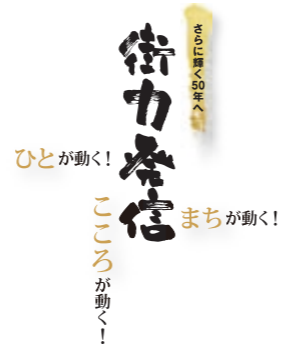
さらに輝く50年へ

ひとが動く! まちが動く! こころが動く!

街としての賑わい、働きやすさ、安全性、魅力・・・その全てを

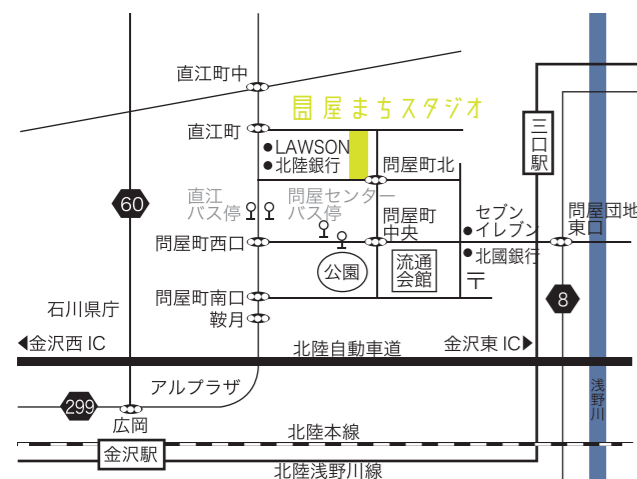
「街力」というキーワードに集約し、ひと・もの・情報が集まる「目利き」の

街として、さらに輝く50年へ向けて力強い歩みを続けて参ります。



交通アクセス

ACCESS



- 北鉄バス「JR金沢駅西口」4番乗り場70番「問屋センター」下車徒歩1分、71番「直江」下車徒歩5分
- 北陸鉄道浅野川線内灘行き「三口駅」下車徒歩12分
- 車「金沢東IC」より約20分  
(駐車場: 問屋まちスタジオ/金沢流通会館駐車場)

[バス]		[電車]	
平日	土・祝	平日・土・祝	
13	10 31	00 32	13 00 30
14	10 17 38	20 27 52	14 00 30
15	20 40	40	15 00 24 48
16	25 27 40	17 32 37	16 12 36
17	15 25 46	10 47	17 00 24 48
18	02	12 (バス約15分)	18 12 (電車約8分)

2017年11.11[土]-19[日] 11:00-18:00

問屋まちスタジオ(金沢市問屋町1-90)



主 催 問屋まちアートファクトリープロジェクト実行委員会

協 力 協同組合金沢問屋センター 金沢美術工芸大学 認定 NPO 法人金沢アートグミ

助 成 いしかわ県民文化振興基金

問合せ 認定 NPO 法人金沢アートグミ 076-225-7780 / info@artgummi.com

開催概要

ABOUT THIS EXHIBITION

対立・分断から対話・融合へ

千利休作といわれる国宝「待庵」は、寺の軒を借り、雨戸の戸板を立てて茶室とした仮設の二畳がその原型だといわれています。明智光秀との山崎の合戦に秀吉とともに戦場を駆け巡った利休 - 「待庵」は利休と秀吉が戦場で人間性を求めて行った茶会から生まれたのでしょう。故に「待庵」は茶室の素形だといえます。いらぬものをすべて削ぎ落としたミニマルな形だからこそ持ち得る力強さがあります。

おこし絵からつくる問屋まちスタジオの「待庵」は、まさにその力を借りて、さまざまな対話を起こすことをめざしています。もともとコミュニケーションの場であり、さまざまな対話を生み出す装置でもある茶室を、対話を通じて、お互いに対峙する異質でばらばらなものが融合する実験の場としたいと思います。

まず、ひとつ目の対話として「問屋と芸術」があります。作家と工業製品をつなぎ、経済優先の問屋と感性優先の芸術の融合をめざしています。問屋町で製造し、あるいは扱っている商品と各作家が対峙し、生みだされる作品 - そこから作家による商品、製品との対話が生まれます。

ふたつ目に「人とひと」の対話があります。茶会本来の目的で人々をつなぎ、問屋まちスタジオをアートファクトリーとする構想の組織づくりやネットワークづくりを行います。対話を「もの」の象徴としておこし絵茶室を、また同様に「こと」の象徴としておこし絵茶会を設定しました。

最後、みっつ目の対話が「工芸と建築」です。かつて工芸的であった建築、空間における芸術的職人技が輝いた時代がありました。それらは機能的で装飾を排した意匠や合理的で手業による設えを排した近代以降の建築が失ってきたものです。ここでは、もう一度、建築に工芸・アートを引き戻す実験の場としたいと思います。

なお、今回の企画は協同組合金沢問屋センター設立 50 周年と金沢美術工芸大学との連携協定調印 7 周年を記念し、問屋まちスタジオで開催するものです。また、昨年度の問 × 美 2016 を引き継ぎ、その第二弾として石川県内のアーティスト、工芸作家、デザイナーの 8 名のコラボレーションにより展開するものです。

おこし絵図（起絵図）

立体的な絵で、台紙に平面図を描き、その上に窓や戸など壁面の内外を描いた展開図を厚手の和紙で貼り合わせたものです。通常は折り畳んでおき、見るときに壁面を起こして組み立てると簡易模型になります。建築図面でもある、おこし絵図には各部の寸法が書かれ、建具や掛け軸・炉・飛び石なども描かれています。「おこし絵図」は「建て絵図」とも呼ばれています。



会期中開催イベント

EVENT SCHEDULE

11月			
12日 [日]	14時	オープニングパーティー	参加無料。ドリンクをお出しします。 14:20頃より、いまるまるによるダンス公演（約30分）
12日 [日]	15時 15時30分 16時 16時30分	茶会	起絵茶室内で茶会を開催します。  1席4名〈予約制・無料〉 点前：山本宗茂（裏千家茶道教場主宰） 予約：金沢アートグミ info@artgummi.com（メールのみ） ①お名前②ご連絡先③左記のご希望日時をお知らせ下さい。 なお、ご予約のない方も茶室の外から席中の様子を見ながら呈茶をいただけます。
19日 [日]	15時 15時30分 16時 16時30分		
19日 [日]	17時	クロージングパーティー	参加無料。ドリンクをお出しします。

参加作家（五十音順）

ARTIST

石森良隆

ISHIMORI YOSHITAKA



1980年金沢市生まれ、福井大学卒業。木工所を営む傍ら、木工ワークショップの開催やコンペティションへの応募など、職人としての活動に勤む。2017年現在、金沢建具協同組合青年部部長、全国建具組合連合会青年部理事。

伊能一三

INO ICHIZO



1970年神奈川県生まれ、東京藝術大学大学院美術研究科漆芸専攻、金沢卯辰山工芸工房修了。主に生きものをモチーフとした作品を制作。漆独特の質感と丸みを帯びた愛らしいフォルムが作品に生命感を与える。

岩井美佳

IWAI MIKA



金沢美術工芸大学日本画専攻卒、同上工芸科染織コース修了。インスタレーション、舞台美術作家。日常のスケッチを元にした自作の映像とテキスタイルを用いて空間を構成する。光と影、透明感のある色彩の重なりをテーマとしている。http://chordalcolors.com

戸出雅彦

TOIDE MASAHIKO



1964年金沢市生まれ、金沢美術工芸大学産業美術学科工芸デザイン卒業。金彩やカラフルな釉薬を用い、絵本や飼い犬からインスピレーションを受けたファンタジックなモチーフを陶芸作品に描き出す。

真鍋淳朗

MANABE JUNRO



1954年京都府生まれ、東京芸術大学大学院修士課程修了。現代の都市空間におけるアート機能の研究を軸に、金沢市内にて数々のアートプロジェクトに携わる。金沢美術工芸大学油画専攻教授、認定NPO法人金沢アートグミ理事長。

宮崎匠

MIYAZAKI TAKUMI



1969年金沢市生まれ。14代宮崎寒雉に師事。約400年前、初代宮崎寒雉は能登国中居で鋳物業を営んだのち京都にて金作りを学び、その後前田利常の御用金師として金沢に呼び戻された。以来、「寒雉釜」は現在まで引き継がれている。

ディレクション／坂本英之

SAKAMOTO HIDEYUKI

1954年石川県生まれ、シュトゥットガルト大学建築都市計画学部大学院博士課程修了（工学博士）。近年はアートや文化を活用した市民主体のまちづくりの実践と研究に取り組む。金沢美術工芸大学環境デザイン専攻教授。